

日刊 動労千葉

1988.7.4
No.2849

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

修善寺臨大の旗を守り 共ニたたかおう！

七月二〇日より三日間、国労第五二回定期全国大会が東京・九段会館で開催されようとしている。動労千葉は、この国労全国大会開催にあたり、国労四万名が、修善寺臨大の旗を守り、分割・民営化体制粉碎、そしてその体制を支える全労働者の敵＝動労革マル・鉄道労連を打ち倒すためにもに起ち上ることを心の底から訴えるものである。

分割・民営化強行一年を期して開始された動労千葉・国労根絶やし攻撃を起点に反撃のストライキが全国各地で開始された。にもかかわらず、国労内の一部指導部が「出向」「清算事業団」問題などにおいて、下部組合員の怒りの声と闘いを無視する方針を打ち出そうとしていることは絶対に誤りである。開始された反撃を絶対に無にするこ
となくさらに大きな闘いとして発展させることを国労四万名に訴える。

強制出向と対決して闘おう！

JRは、国鉄労働運動破壊の最後の「切り札」として、直営売店・飲食店の全面子会社の攻撃をかけてきている。すでに、JR西日本では「六月一日」より子会社化が強行されたのであるが、そうした中、国労西日本本部は組合員にはなにも知らせないまま独断で、西日本当局と「広域出向に関する協定」（以下、出向協定とする）を締結してしまった。この出向協定締結は、当局と革マル・鉄道労連とが一体となり、動労千葉・国労をJRから一掃するために強制出向をしかけてきている時、それに手を貸す重大な裏切りである。

本人の同意など無視される「協定」

もふれていない。まさしく強制出向のための「協定」である。「出向にあたっては、業務上の必要性に基づき、社員の適正、能力を勘案の上、人事運用の一環として実施する」となっている。「人事運用上」とは、本人の同意など全く無視して、当局の好き勝手にやるということ。それは、この間の攻撃ではつきりしている。

さらに、国労近畿地本と、JR近畿支店との交渉のなかでは「関連事業部所属で出向を希望している者が出向された場合も協定上の扱い」となっている。事業部に配転された労働者は、有無も言わず、全員が出向扱いになるのだ。

永久追放の首切り

つぎにこの「協定」は永久追放・首切りを認めるということである。「協定」によると「復職は、適性、能力、出向経歴、前所属箇所、及び要員受給状況を勘案のうえ決定する」となっている。

しかし、今日極限までおこなってもなおとどまらない合理化を狙う会社側が「三年たったら帰れる」と言っても絵に書いたモチである。まして、国労に所属している限り、「適性、能力」「出向経歴」から不都合とされれば「永久に帰れない」としてくることは目に見えている。

「出向協定」を破棄し、

強制出向を阻止しよう！

強制出向は、当局・革マルの最後の手段だ。敵は、これに失敗したらもはや打つ手はない。「本人の同意を無視した出向」は労資間で「協定上」取り交さない限り、簡単に強制できる訳がないのである。国労全国大会で「出向協定締結」の裏切りを許さず、真しな討論をまきおこし、「出向協